



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第9号

2023年10月16日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

SPさん大活躍！！ ～緒川小学校 学校視察日での活動～

10月10日、この日は緒川小学校に全国から250名ほどの方が学校の視察に来られました。緒川小学校は、46年前にオープン・スペースを備えた校舎（オープン・スクール）として全面改築されました。その当時から「個別最適な学びと協働的な学び」に取り組んでいる学校で、改築から今現在まで、独自のカリキュラムを受け継ぎ「個性化教育」に取り組んできました。その実績から、経験とノウハウを学びたい・知りたいと、現場の先生をはじめ多くの教育関係者の方々が視察に来ます。参観希望者がたくさんいることから、年3回、「学校視察日」を設定し、対応をしています。新型コロナウイルスの影響が落ち着いて以降、回を追うごとに参観者が増えることから、緒川小学校の注目度がうかがえます。



学校視察日も、普段の学校の様子を参観してもらうために通常の授業をしています。当然、担任の先生は授業をしているので、参観者の対応は限られた人数でしかできない状況です。約250名の対応を数名でこなすと考えるとゾッとしますが、そんな大変な状況を支えてくれたのがSPさんです。この日は、緒川小学校のウィークリーSP、他の学校のウィークリーSP、わくわく算数教室など補充学習会に参加したSPなど、計8名が来てくれました。駐車場の案内、会場設営、授業中の子どもたちへの支援、諸々の準備や片付けなど、普段のSP活動以上に多岐にわたる活動内容でした。8人のSPさんの中には、今回初めて緒川小学校に来たSPさんもいましたが、「本当に初めて？」と思うほど臨機応変に動いていました。どのSPさんも対応力抜群です。「椅子の間のここに通路をつくった方がいいですよね？」「さっき立っている方もいたので、今のうちに椅子を増やしましょうか？」「このクラス、支援に入ってもいいですか？」など、現場のその時の様子を見て、動いてくれました。気づけること、聞けること、そして動けること、どの職種でも必要な力です。SPさんは“気づく”ポイントもセンス抜群です。加えて、どんなことをお願いしても「はい！大丈夫ですよ。」「これ私やりますね。」と笑顔で快く動いてくれます。自分で見て、考えて動いてくれるSPさんはなんとも心強く、本当に大助かりの一日でした。SPさんのおかげで、“普段の学校”を参観してもらえたように思います。





2年生が九九に取り組んでいました。九九の時間はアウトプットをたくさんします。子ども一人一人が先生のところに行き、九九を声に出してチェックしてもらっていました。担任一人では、一人の子どもしかチェックできませんが、そこに SP さんがいてくれば2人でチェックできます。チェックするスピードが2倍になれば、子どもがアウトプットできる機会(時間)も2倍になります。この時間、SP さんのおかげで子どもたちはたくさんアウトプットの機会を得ることができました。

子どもの様子を見て、声をかける SP さん。「ここがいいかな」「どっちがいいんだろう」子どもが考えている時間、子ども同士で話し合っている時間、SP さんはそっと見守ります。「声をかける」ことだけが支援とは限りません。「見守る」ことも立派な支援です。そのさじ加減が難しいですが、それを学べるのが SP 活動です。「今の支援がその子にとって良かったのか?」、子どもの表情・様子から一つ一つ振り返っててください。



今回の通信を読んで、緒川小学校に興味を持ったSPさんもいると思います。ウィークリーSPの活動はもちろん、補充学習会や学校行事などでも緒川小学校で活動できる機会はたくさんあります。一度「オープン・スクール」を見に来てみてください。

「東浦町のSPさんは質が高い」とよく言われます。来てくれるSPさん自身が「学びたい」と意識高く活動し、さらにもともと持っている能力が高いからということが根本にあります。それと同時に、東浦町は「学生のために」という気持ちを持って学生ボランティア事業に取り組んでおり、その気持ちが質の高さにつながっているように思います。今回の学校視察でもSPさんに、雑多な仕事をたくさんお手伝いしてもらいましたが(その中で8人のSPさんは、自らいろいろなことを学びとっていたので、さすがという一言につきます。)、雑用ばかりではSPさんのためになりません。「子どもと関わりたくて学校ボランティアに参加しているのに雑用ばかりさせられる」など、他の地域では単なるマンパワーとして学生を“使っている”ところもあると聞きます。でも、「せっかく東浦に来てくれたからには、SPさんにも一つでも学びがあるように」、そんな気持ちで東浦町は事業を展開しています。その想いを多くのSPさんはくみ取ってくれています。だからこそ、大学を卒業する時には最初会った時とは見違えるほどSPさんは成長しているのだと思います。大学で学ぶ知識も必要ですが、知識だけでは目の前にいる子どもには通じません。教育の現場で磨く、教育の現場感覚があります。子どもにとってもWin、学校にとってもWin、そして学生にとってもWin。関わる全ての人にとってWinになる活動が東浦町のSP活動です。これが「質の高い」東浦町のSP活動につながっています。